

動物の命を守り、住みやすいまちを作るために わたしたちにできること

近年、市動物愛護センターに寄せられる猫についての相談件数が増加傾向にあります。

猫をかわいがりたい方も、困っている方も、

気持ちよく暮らせるまちにするためにはどうすればいいか？

それぞれの立場でできることを考えてみましょう。



表紙の
答え

**メス猫1頭を不妊手術せずにいると
3年後には2,000頭以上に増えてしまいます……**

動物は本能で繁殖を
行います…！

1頭のメス猫が…



1年後には20頭以上



2年後には80頭以上



3年後には

2,000頭以上！



※実際は、その多くが子猫のうちに死んでしまいます。

繁殖能力

メス猫



生後4～12か月で子猫を産めるようになります。年に2～4回発情期があり、1回に4～8頭産みます。

メス犬



生後6～9か月で子犬を産めるようになります。年に約2回発情期があり、1回に3～10頭産みます。

犬・猫を飼うときや、ノラ猫にエサをあげるときは、**必ず不妊去勢手術をしましょう！**

病気の予防や発情期特有の困った行動の防止にもなりますよ。

増えすぎると何が問題？

1頭や2頭なら大丈夫でも、どんどん数が増えると、管理が行き届かず、多頭飼育崩壊などを招きます。また、増えすぎた犬や猫による悪臭や騒音など、周辺環境が悪化してしまいます。

多頭飼育崩壊

飼い犬や飼い猫が増えすぎて、生活環境が損なわれ、適正に飼育し続けることができなくなった状態のことをいいます。本市でもほぼ毎年発生しています。

周辺環境の悪化

ノラ猫に不妊去勢手術をせず、無責任にエサをあげていると、あっという間に数が増え、ふん尿や、いたずらによる被害などで周辺の環境が悪化してしまいます。エサをあげる場合は、不妊去勢手術をし、エサやりやふん尿掃除のルールを決めて適切に管理するなど、近隣の配慮が必要です。

令和2年に
動物愛護管理法が
改正されたニャ



動物の遺棄や虐待への罰則が強化されました。また、飼い主だけでなく、エサをあげている人にも、猫による被害に対する責任が生じることが明記されました。

ノラ猫に関するお困りごとを地域で話してみませんか？



市動物愛護センター
ながい かずき
長井 和樹

市動物愛護センターにはノラ猫の世話をしたい方、ノラ猫に困っている方、それぞれの立場からいろんな相談が寄せられます。職員の長井さんによると「両者は一見対立しているようですが、じっくり話を聞くと『猫が増えすぎて困っている』という共通の悩みを抱えていることが多く、地域で話し合うことで解決されたケースもある」そうです。

例えば、ノラ猫を捕まえ不妊去勢手術をして放すことで数が減り、ふん尿被害が軽減された事例。

さらに、エサを置いたままにせず食後は周辺を掃除したり、トイレを設置したりすることで地域美化を保っている成功例も。

獣医師やボランティアなどで構成される市動物愛護推進協議会では、不妊去勢手術費用の一部助成(条件有)を行う他、市動物愛護センターと協力し地域活動をサポートしています。関心のある方は気軽に問い合わせください。

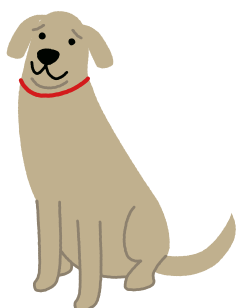
よくある 質問・相談

Q&A

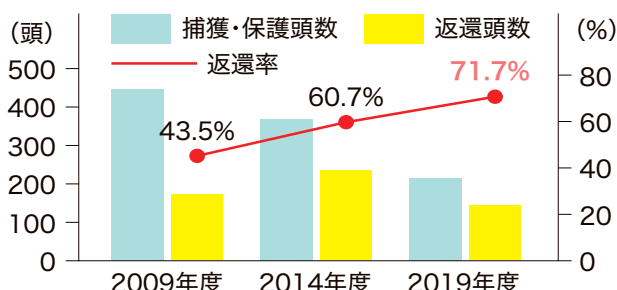


飼い犬がいなくなったときはどうすればいい？

犬に関する情報は市動物愛護センターに集まります。交通事故や咬傷事故が発生する危険があります。すぐに探し始め、同時に市動物愛護センターと最寄りの交番に連絡してください。



市動物愛護センター 犬の捕獲・保護、返還状況



年々捕獲・保護頭数は減少し、返還率は上がっています。これは、飼い主さんの適正飼養や終生飼養への意識が向上したことによるものです。適正に飼養すれば、市動物愛護センターで殺処分される不幸な犬が減ることにつながります。